

### 州都構想の骨格（案）（1/2）

#### ◎州都構想の目的

- 多極分散型発展を目指すこれからの九州にあって、熊本がどのような貢献ができるか考えるきっかけとなる
- 州都を目指す過程で、より品格があり、活力のある県へとレベルアップを図る
- 道州制が実現したときに、すぐに熊本が州都候補になれるよう準備

#### ◎州都選定の視点

州都の条件を整理する視点

#### ◎州都の条件

州都に求められる機能や役割等、州都として選ばれる条件

#### ◎州都のイメージ

熊本が目指すべき州都の姿

地理的視点	○道州内の主要都市からアクセスが容易であること	○高速交通網が整備され、九州の主要都市と短時間で行き来ができる	<b>【州都のイメージ】</b> ○九州各地と緊密に結ばれ、多くの人々が交流 ○全国、世界に開かれた活力あふれる都市 ○住民はクオリティの高い生活を実感
経済的視点	○第三次産業が集積し、経済面でも拠点性があること	○多くの人々が交流し知識集約型の産業が集積している ○起業しやすく、新しい産業が立地する都市	
安全・安心の視点	○危機管理の拠点となりうること ○災害に強い都市であること ○治安環境が安定していること	○水や食料等の資源が豊富にあり、州内全域を支援できる能力が高い都市	
品格・暮らしやすさの視点	○品格があること ○生活のクオリティが高いこと	○歴史、文化の息づく品格ある都市 ○充実した教育環境 ○多様な価値観を認め合い、転入者も暮らしやすい都市 ○人と人、人と自然のつながりを実感できる都市	
政治的視点	○道州内の各地域から政治・行政の中心であることを認められ、支持されること	○九州の方向性を議論し、決定する機能のある都市（九州各地域の自立的な発展を図るために必要な行政機能は分散）	

※ これまでの「くまもと未来会議」での議論に基づき整理

認められ、支持されるためには、住民の機運の醸成（モメンタム）が必要

# 州都構想の骨格（案）（2/2）

## ◎ 州都に向けた取組みの方向性

州都の条件に照らした本県の現状と、今後の取組みの方向性

